

〔長崎市理財部資産経営室からのお知らせです。〕

# 公共施設の将来のあり方を考える市民対話《戸町・小ヶ倉・土井首地区》

## ❀ 第2回 開催報告 ❀

**日時** 令和元年8月18日(日) 15:00~17:00

**場所** 小ヶ倉地区ふれあいセンター

**参加者** 地域の皆さん 23人



ご参加いただいた皆さま  
ありがとうございました。



### 1 第2回までに話し合ってきた内容

#### 第1回

(6/29)

- ①長崎市の**公共施設の現状**（利用状況や老朽化の状況など）や**見直しの必要性**についてご説明しました。
- ②戸町・小ヶ倉・土井首地区の将来を考えるうえで、**地区にある公共施設の課題や問題点**について話し合いました。



#### 第2回

(8/18)

- ①公共施設の種類ごとに**市全体の施設の配置の考え方**と、戸町・小ヶ倉・土井首地区にある**施設の配置の考え方**をご説明しました。
- ②市がご説明した**配置の考え方**に対して、**意見、アイデア**がないか話し合いました。



### 2 公共施設の配置の考え方

#### 市営住宅



新戸町住宅



小ヶ倉住宅



草住住宅



毛井首住宅



戸町住宅（借上）

今後、人口・世帯数が減少し、民間の空き家も増加するため、市営住宅の需要は減少すると予想されます。

そのため、セーフティネットとしての役割を担いながら、将来的には市全体の市営住宅の総戸数を減らしていく方針です。

今後、建て替える際は、できるだけ集約して効率的な維持管理ができるようにし、配置は、長崎市の「立地適正化計画」によるコンパクトなまちづくりや市内各エリアにおける特性を十分勘案して、見直します。

❀現在の建物を適正に管理し、大規模な改修や建替えが必要となるタイミングで、人口などの状況を踏まえ、規模の検討を行います。

❀また、住宅のバリアフリー化についても、今後、住宅の建替え計画等を策定する中で検討することとしています。

## 2 公共施設の配置の考え方（つづき）

### コミュニティ施設

戸町中学校区



地域の皆さんが身近にふれあい、さまざまな活動を行っていく場所として、気軽に立ち寄ることができる地域コミュニティの場はこれからも必要です。

今後は、ふれあいセンターや地区公民館などに加え、特定年齢層を利用対象とした老人憩の家や児童館・児童センターなどの施設も、将来的に、多世代が利用できる施設へ利用方法や機能を見直し、身近な場所で、地域の子どもから高齢者までの多世代が活動する場を維持していきます。

戸町地区ふれあいセンター



●地域の皆さんが最も身近な場所で、話し合いの場やさまざまな地域活動に利用する地域コミュニティの活動拠点は、概ね小学校区の範囲への配置を考えています。

小ヶ倉中学校区



●多数の参加が見込まれる活動などのため、小学校区の施設よりも広いスペースや、調理室などの特定の設備が必要な施設は、小学校区の施設を兼ねる形で、概ね中学校区の範囲への配置を考えています。

小ヶ倉地区ふれあいセンター



●中学校区を超えた大規模な催しなどのため、対応できる広いスペースや、ホールなどの設備が必要な広域的に利用できる施設は、長崎市の都市計画上の地域拠点または交通の便の良い場所への配置を考えています。

ダイヤモンドふれあいセンター



●市域全体から利用される施設は、交通の便のよい都心部及び都心周辺部に配置する考えです。



おみず荘

土井首中学校区

### 中学校区

#### 小学校区

- 集会室
- 和室
- 給湯室

…等



- 集会室
- 会議室
- 和室
- 調理室
- 事務室兼図書室

…等

概ね500㎡

◆小学校区に配置する施設には、話し合いや活動に使える部屋が必要です。

◆中学校区に配置する施設には、複数の団体や多人数の活動や行事が行える部屋、団体による会議等ができる部屋、調理室、事務室、図書室などを備えることが標準的な形になると考え、延床面積500㎡程度の規模が適当であると考えています。

土井首地区ふれあいセンター

❁戸町地区ふれあいセンター、小ヶ倉地区ふれあいセンター、ダイヤモンドふれあいセンターは、地域の皆さんがさまざまな地域活動に利用できる施設として、現在の施設をこれからも活用していただきたいと考えています。

土井首児童館

複合施設

❁おみず荘は、老朽化していて耐震性もなく、使い続けるには大きな費用がかかってしまいます。そこで、コミュニティ活動の場としての機能は、地区内にある他のコミュニティ活動施設への集約を検討し、入浴の機能については、利用者の身体の状態や機能の状況に応じて代替策を講じていきます。



しらゆり荘

❁しらゆり荘は、高齢者を対象とした施設ですが、将来的には、多世代が利用できる施設へ機能の集約を検討する必要があります。また、土井首地区ふれあいセンターと同じ小学校区にあるため、その時のコミュニティの形成状況や人口動態、利用状況などを踏まえて、将来的に集約を検討する必要があると考えています。



南部市民センター

❁土井首児童館は、満18歳未満の児童を対象とした施設です。現在、子どもの放課後の居場所として、放課後児童クラブ、放課後子ども教室などがあり、今後はこれらのサービスの拡充を図ることとしていることから、将来的には、児童館の役割についても見直す必要があると考えています。

❁南部市民センターは、広域的利用施設に位置付けられますが、長崎市南部には三和公民館があり、広域的利用施設が2か所あることになるので、将来的に、その時の利用状況等をみながら、南部に1か所の配置となるように検討していきます。



## スポーツ施設



スポーツ施設は、生涯にわたってスポーツに関わることで、健康で豊かな生活を送ることができ、また、競技力の向上を図ることで、地元選手が活躍できるよう、その活動の場として、重要な役割を担っています。

- 地域の皆さんの身近なところには、気軽にスポーツに親しむことができる場として、公園機能の一つとして配置されているグラウンドを継続して配置する考えです。また、街区公園等の広場やふれあいセンター等の軽スポーツ室の活用、学校の体育館などの開放を進めています。
- 市内の中央、東部、南部、北部の4つの各地域内において、各地区からの交通の便が良い交通結節点などに、生涯スポーツの推進や競技力の向上のために、スポーツ専用施設として、体育館や庭球場を配置する考えです。
- 都心部及び都心周辺部には、九州大会や県大会などの大規模な大会に利用するためのスポーツ専用施設を配置します。



小ヶ倉プール

❁小ヶ倉プールは、老朽化が進み維持コストもかかるため、今後の利用状況等の推移を見ながら、大規模改修が必要な時点で廃止を検討します。ただし、小ヶ倉プールは現在、小ヶ倉小学校のプールの授業で使用しているため、仮に学校の統廃合が行われる場合は、その時期との兼ね合いも考慮する必要があると考えます。

## 放課後児童クラブ

※学校施設や敷地、市有地を活用して設置されている放課後児童クラブを記載

放課後児童クラブは、子どもたちの放課後等における安全・安心な居場所の確保を図るために、小学校区ごとに設置されています。

基本的には、小学校の適正配置と合わせて、事業者による運営の統合を働きかけていきます。



たけのこクラブ  
(戸町小)

とまちクラブ  
(戸町小)

おれんじキッズ  
(小ヶ倉小)

ほしのこらんど  
(南長崎小)

菜の花クラブ  
(南陽小)



## 子育て 関連施設

土井首地区  
子育て支援センター



子育て支援センターは、子どもを育てる保護者が気軽に集い、相互に交流や相談等ができる場所として、「長崎市子ども子育て支援事業計画」に基づき、設置することとしています。

❁現在の建物を引き続き適正に管理して、子育て支援センターとして活用していただきたいと思います。

## 学校



戸町小学校

小ヶ倉小学校

南長崎小学校



土井首小学校

南陽小学校



戸町中学校

小ヶ倉中学校

土井首中学校

学校の適正配置については、教育委員会が地域と協議させていただいています。

## 庁舎等



小ヶ倉  
地域センター

土井首  
地域センター

身近な手続きや相談ができ、地域のまちづくりを支援する機能は、引き続き必要と考えています。

❁現在の施設を引き続き適正に管理していきます。

## 消防



道路状況や隣接する消防施設の位置などを考慮したうえで、全市の観点から効率的に配置を行います。



南消防署

南消防署  
土井首出張所

## 2 公共施設の配置の考え方（つづき）

### 公園

公園には、「防災や避難等災害に対応できる機能の確保」、「複合遊具等を活用した魅力的な子どもの遊び場の創出」、「スポーツ施設等の利用環境の充実」、「健康づくりのための機能の導入」など、多様なニーズへの対応が求められます。

市内における都市公園の市民1人当たりの標準面積は10平方メートル以上、市街地の市民1人当たりの標準面積は5平方メートル以上とし、都市公園の種類や目的及び誘致距離を勘案し、配置の均衡を図ることとしています。

南部地区公園



えがわ運動公園

❁戸町・小ケ倉・土井首地区の公園は、配置や面積の状況等から、ほぼ充足していますので、基本的には現状を維持することとし、公園再整備の際には、社会状況の変化を踏まえながら公園毎の施設のあり方や機能分担、統廃合等の検討を行い、公園利用者のニーズに合った整備を進めていきたいと考えています。

## 3 グループワークで出された主なご意見

市がご説明した将来の「公共施設の配置の考え方」について、グループごとに意見やアイデアがないか話し合っていました。

・戸町地区ふれあいセンターは、駐車場が不足しているから利用者が少ないのではないかと。民間の施設を借り上げて確保してはどうか。

1班

・戸町地区ふれあいセンターは、手狭で利用しづらく、地域コミュニティ連絡協議会の拠点にするスペースも確保できないので、新戸町住宅の建替に合わせて、1階部分をコミュニティ施設として複合化し、そこにふれあいセンターの機能を持たせてはどうか。また、現在のふれあいセンターは、戸町2丁目自治会に払い下げてはどうか。

・ふれあいセンターの開館時間の延長や、予約の柔軟性に配慮してほしい。

・南部市民センターは、一部を子どもの屋内の遊び場として利用できないか。

2班

・小ケ倉プールは、行きづらいから利用者が少ないのではないかと。改善すれば利用者は増えるのではないかと。

・土井首児童館は、どういう施設なのかよくわからない。

もっと広報活動をすれば利用者が増えるのではないかと。

・おみず荘を避難所にできないか。

・おみず荘を廃止するなら、自治会に無償でもらえないか。自治会の公民館として使いたい。

・小ケ倉プールを廃止したら、今利用している子どもたちはどうするのか。

3班

・おみず荘の廃止後、新しく建てるなら、ダイヤモンドに建てたらどうか。駐車場があり、車の便利も良くなる。

・小ケ倉中学校は新しく、便利も良いが、子どもが少ないということで統廃合の問題が起きている。そこで、小ケ倉中学校に他の地区から生徒を集めるような方法を考えてはどうか。

4班



### 【講評】（アドバイザー：首都大学東京 都市環境学部 讃岐 亮 先生）

●施設の床面積(量)を適正化しないと財政の健全化ができませんが、量の適正化だけでは立ち行かず、施設の配置についても適正化しなければなりません。

●駐車場の確保は、他の地区、あるいは他の自治体に比べてとても重要なキーワードになっていると思いました。ただし、新しく作る場合、市有の土地を増やしてしまうことになり、結果的にみなさんの負担が増えることもあるかもしれないので、柔軟に考えましょう。

●地元の自治会に施設を移譲する、という意見がありました。受け取った場合、維持管理など地元は何らかの負担がかかりますが、公共施設として行政が持つても同様にお金がかかる、ということをご共有したいと思います。

●次回の対話では... 第2回までの対話を踏まえて、市が検討した結果をお伝えします。それに対して、意見交換を行いたいと考えています。また、対話全体のまとめを行います。

日時：令和元年9月29日（日）15:00~17:00

場所：小ケ倉地区ふれあいセンター 第1研修室

◆お問い合わせ：長崎市理財部資産経営室（☎直通：095-829-1412）